日语文法:二重写しの已然形 PDF转换可能丢失图片或格式 ,建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/147/2021_2022__E6_97_A5_ E8 AF AD E6 96 87 E6 c105 147556.htm 「こそ~已然形」 というりびにはと逆接と二通りの意味がある。 この特を生 かしたイキな技巧について、歌と和歌の中の用例を通して 考察する。 その 1 歌のなかでのイキな技まず「山三吟百」 の中にこんな歌がある。 ふる里ものこらずきゆる雪をて 宗 (初三)世にこそみちはあらまほしけれ宗(初四)新潮古 典集成「歌集」ではこの句のは「この世の中にこそ正道が れてほしいものだ。」となっている。 はっきりととしてと らえられている。 ところが次の 世にこそみちはあらまほし けれ宗(初四)なにをかは苔のたもとに恨みまし肖柏(初 五)の付け合いでは「世の中一般にとっては正道が望まし いけれど、世人である自分は今更世の乱れを特に恨むには およばない」となっていて、これは逆接としてとらえてい る。 前句でとして使われていた「こそ~已然形」をわざと 逆接にとらええることによって付け合いの妙をねらった、 面白い技法を宗は使ったのだろうと思われる。「享二年宗 砌等何路百」の中にも、同じような例がられる。 ささふく のつづく奥山 (三表四) 玉霰音する日こそ 寂しけれ (五) 雪降る此ろは野も目かれず(六)四 五においては「ぶ きの粗末なでは霰の音のする日はとりわけさびしいものだ 」といったの意味なのに、五 六においては「霰の音のす る日こそ寂しいものだが、雪が降るとその美しさに野の景 から目がせない」といった逆接の意味になっていている。

まだある。「天正十年宕百」。里き庵も哀れに住みれて(三表十三) てしうき身もほだしこそあれ(十四) みどり 子の生ひ立つ末を思ひやり (三一) 十三 十四では「人里 れたこの庵にも住みれた、世をてた身でもてきれない累は あるが」といった逆接の意味で、十四 十五では「がかり な幼い子の将来を思いやると、世をてた身にもてきれない 累があることだなあ」といったの意味になっている。 もう ひとつ。「守武独吟俳百」でも かへりてはくるかりがねを はらふ世に(十一)さだめ有るこそからすなりけれ(十二) みる度に我が思ふ人の色くろみ (十三) において十一 十二では「金は借金を一日で返すと期限がまっていてしい なあ」というようなの意味で、十二 十三では「ははじめ からいものとまっていてわらないが、妻はみる度に色がく なっていく」というような逆接の意味でとられている。 こ のように「こそ~已然形」がと逆接、二重の意味を持って いる点を上手く利用して前句からのをはかるという技巧は 、たしかに存在していたと思われる。この技法は一人で作 品を作るのではなく数人で歌をねていく歌の「いかに前句 を承け、いかに前句を切るか」という醍醐味に非常に良く マッチしているのではないだろうか。 わたしもこのサイト の他のペジで歌をやっているが、いつかは使ってみたいか っちょいい技法である。 その 2 和歌一首の中で「源氏物」 の歌の中の「已然形」の含まれている二つの歌に注目し、 「已然形」のもつ特を考することでより密なをつけていき たい。まず「角」の中にある次の歌。 若草の ねむものとは 思はねど むすぼほれたる 心地こそすれ これは、が同腹の女

一のとらっている、ふと女一のの美しさに心ひかれて「せ めて母であったら」などと思いつつ歌いかけた、あざれた 恋歌である。 そのは新潮社の日本古典集成では 「 若草のよ うに美しいあなたと、共寝をしようとは思いませんが、 や はりましく晴れぬ思いがします。」、 岩波店の新日本古典 体系では「若草のようなあなたと共寝をしようとは思わな いが、 やはりましくて胸も晴れやらぬ、の意。 」となって いる。これらは「心地こそすれ」の「すれ」という已然形 を「」としてとらえてのだろう。 しかし用言が已然形をと っている合、「」という意味の他に「」や「逆」の意味も 生する。そこで、「心地こそすれ」を「」としてとらえて みると「心地がするので」となる。また「むすぼほれる」 という言には、「(状のものが)からまり合ってがわから ないさまになる」「心が屈した状になる。」などの他に「 故でつながっている」という意味がある。 この二つを合わ せると「むすぼほれたる心地こそすれ」は「の弟の持ちが するので」という意味にとらえることができる。 たくさん ある源氏の中で小学の日本古典全集だけそのようにしてい た。「若草のように美しいあなたと弟ゆえに共寝をしよう とは思いませんが、ましく晴れやらぬ私の心です」となっ ている。 そして、これをさらに一めて、已然形を「逆」と してとってみよう。「むすぼほれたる心地こそすれ」は「 故でつながっている持ちはしますが」という意味にとらえ ることも可能である。しますがどうなのか、と考えた合、 やはりそのきは歌の冒にって「しますがあなたは美しいの で妖しい持ちにもなってしまいます」とつながるのではな

いだろうか。 つまり 若草のように美しいあなたと共寝しよ うとは思いません。 私たちはの弟なのですから。でも共寝 しようとは思いませんが やはりましく切ない持ちがします 。の弟とはいえあなたは美しいので。 というようなながき 出されることになる。「こそすれ」という已然形をにして 重的な歌意がぐるぐるとルプしている造になっている。 色 々な思いがぐるぐるめぐってしまう状というのは恋のに似 ていて、恋歌を歌うのには大切な造の歌であるように思う 。 同じに「已然形」の捉え方がポイントになってな歌意が き出される歌に、「花の宴」の 世に知らぬ 心地こそすれ 有 明の月の行方を空にえてがげられる。 面は、光源氏が月 夜と初めて逢った後日、月夜の残していった扇をながめな がら逢のの子を思い出して「つくづく眺め附し」ていると ころである。この歌の来のは「まだしたことのない悲しく さびしい持ちがすることだ。 有り明けの月の行方を空の中 とで失ってしまって。」(角川)「こんな思いは今までに 味わったことがない、有明の月(女)の行方を途中で失っ てしまって。」(新潮)などとなっている。「世に知らぬ 心地」を「今まで知らなかった寂しい(または悲しい)持 ち」ととり、「こそすれ」の已然形の意味を「」(あるい は「」)としてとらえてのだ。 しかし、ただそれだけのこ とを言うのにわざわざ倒置をしたり中途半端に「えて」と 言いさしたりするだろうか。このの源氏と月夜は他の面で もしばしば非常に凝ったつくりの技巧的な歌をんでいる。 また、源氏はたった一度逢をかわしただけの女の行方を失 い、「あの人はどこの人か」「右大臣のかも」「でも婿い

されても困るし」「かといってこのままでは嫌だし」など とああでもないこうでもないとそのことばかりに思いをは せ、しかもその女の残していった扇を手にとって日がな宙 をつめて寝がっているという状に描かれている。(そんな 源氏はちょっと可い。源氏の人の秘密はこんなところにあ るのだ。きっと。)そので歌われる歌なのだから、作者紫 式部はもっと密で多な思いを源氏に歌わせたのではないか ?。「若草の」の歌と同、この歌の「世に知らぬ心地こそ すれ」の部分を逆としてとらえてみると「ヨニシラヌココ チがしたのに女の行方を失ってしまった」となる。 では「 世に知らぬ心地」とは何だろう?「世」には「人生」「男 女の仲」などの意味がある。また、副「世に」には「全く 。断じて」という意味がある。これらを合わせると「今ま での人生で全く知らなかった男女の仲にする(つまり恋の) 持ち」といったような内容になる。 果たして「恋の持ち 」は来ののように寂しかったり悲しかったりするだけだろ うか。どんな持ちがしたのに女の行方を失ってしまったと 考えるのが一番当だろう。 やはりここは「今まで体したこ とのない素晴らしい持ち」がしたととらえるのが妥当では ないか。「素晴らしい恋の持ちを知ったのに、あの人の行 方は失ってしまった」という新しい解が、已然形を逆とと ることによってき出されるのである。 源氏物の中のやかな 面やロマンチックな感情が、「悲しみ」や「恨み」などの マイナスの感情からのみ解を与えられてしまっている例は 他にもあるが、そのような描写ばかりの物が当のうら若い 女房中の心をとらえ中にさせたとは考えにくい。(「ゲツ

ク」みたいなもんだったと思うんですよ~。)この解によ る意味と来の意味とを合わせると、 今まで体したことがな い(ほど素晴らしい)持ちを味わったのに、あの人の行方 は判らなくなってしまった。判らなくなってしまったので 今まで体したことがない(ほど悲しく切ない)持ちがする ことだ。となる。やはり已然形をにして一つの言から二つ のなる心情がき出され、それがぐるぐるとルプする形にな っている。行方の分からない女を思ってする源氏の姿にか さなって、その思いが切々とわってくる表である。 更に「 空に」には「むなしく」という意味があるし、「空ゆく月 の」は「めぐり逢う」という言の序であることを考えると 、この他に「素晴らしい持ちを味わったのに空しく失って しまった」「でもいつかめぐり逢いたい」というような思 いもみ取ることが出来るかもしれない。 以上のように、二 重にも三重にもみ取れる意味がお互いにまりあって重にも 重なった情景を描きだしているが、このような重的な歌が かれてあるのは、は「の三重がさね」の扇なのである!三 重重ねの扇に三重重ねの歌がきとめられる、という作者紫 式部のしゃれた技巧が大面白く、また、ベルのように重に も重なった思いはさながら春霞のようで、名「花の宴」と あいまって、春の盛り、の中で交わされた一瞬の恋、とい った情景を非常によくえている。 おまけ 春ごとに る花なれ ど 今年より き始めたる 心地こそすれ (道命法 花和歌集春 歌三二)もまた最後が「というがするけど春ごとにる花だ った」と、くルプしている。かもしれない。 100Test 下载频 道开通,各类考试题目直接下载。详细请访问

www.100test.com